

## 福祉文教委員会

### 「学校のICT活用は」

【現地視察】令和3年10月26日

小中学校におけるICTを活用した授業を視察するため、北小学校と中山中学校を訪問しました。文部科学省は、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、子どもたち一人ひとりに公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境の実現を目的とした「GIGAスクール構想」を推進しており、市においても今年度当初に児童生徒1人に1台のタブレットPCが整備されました。

北小学校では、算数・社会・体育の授業を参観し、それぞれの授業の中で、児童がタブレットを使いこなしている姿が印象的で、児童の順応性の高さが伺えました。また、体育ではダンスの授業を参観しましたが、ダンスの様子をタブレットで撮影し、その動画を再生して自分のダンスする姿をチェックするなど、タブレットの多様な活用方法を実感しました。

中山中学校では、数学、英語、社会の授業を参観し、電子黒板とタブレットが連動して、アンケートの回答結果がリアルタイムに反映されている様子や、タブレットを手にグループで話し合いをしている授業風景を参観しました。

参観後の意見交換では、ICTの活用によってわからない生徒を置き去りにしないこと、調べ学習が簡単にできること、教師の働き方改革にも大きな効果があること、家庭への持ち帰りが今後の課題であり、そのため環境整備が必要であることなどを伺いました。



## 福祉文教委員会

### 「もう一つの学校」

【現地視察】令和3年11月12日

オルタナティブスクールNPO法人風の時代の学校(そら風スクール)への視察を行いました。そら風スクールは非営利活動法人として不登校児童生徒を受け入れる取組をすすめている団体です。

コロナ禍の影響もあり市における不登校児童生徒は、増加傾向にあり、大きな課題となっています。そうした中で、不登校児童生徒の居場所として活動をすすめているそら風スクールの現状と課題について伺いました。

オルタナティブスクールはもう一つの学校ともいわれており、そら風スクールでは不登校児童生徒の受け皿として生活や学習を応援する活動がすすめられています。そら風スクールの代表から、設立までの思いや、運営における課題について伺う中で、そら風スクールの活動は不登校児童生徒の選択肢の一つとして期待される取組であることを実感しました。

不登校児童生徒対策は高山市教育委員会においても重要な課題として検討がすすめられ、高山市教育支援センター構想が示されています。不登校児童生徒の対応策は関係機関の連携や一人ひとりの児童生徒に寄り添った対応が必要とされています。福祉文教委員会では不登校児童生徒の対応策について引き続き調査研究をすすめます。

